

令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	理事長 松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	私たちは生協人として利用者の満足向上のために常に利用者の立場で考え、誠実に行動します。事業所では、生協福祉の理念「あなたらしさいつまでも」を実現するために、10の基本ケアを実践・推進し、利用者ができる限り自分の力を発揮しながら自分らしく生活できるように応援していきます。そのために、本人と家族の思いに沿えるよう交流を深め、信頼関係の構築に努めます。また、地域社会からも信頼される事業所を目指し、地域とのつながりを大切にします。
事業所名	小規模多機能ホーム 敦賀きらめきハウス	管理者	服部 眞二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	人	人	3人		10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 本人、家族の思いを共有し信頼関係を築いた上で、より良い提案が行なえるようにケースミーティングを適宜開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の関係でミーティングは毎日実施することはできず数日間隔が空くことがあったが、変わったことなどがあればグループラインで申し送りを行ない（個人名は隠して）迅速に情報共有することができた。 事前にアセスメントを共有しミーティングで情報伝達した上で、日々の変化や変更点は申し送りで確認できている。 利用開始時は本人や家族等と情報交換を密にして医療的な面もサポートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録を見させてもらい、できていると思う。 コロナ感染の影響もあり、ミーティング等を開催するのは難しかったと思う。 それぞれの改善計画が具体的なものになっている。 事業所は違っても、できている点やできていない点は、感じるものが同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用開始前に十分な情報が得られなかった場合は、できるだけ早く必要な情報を聞き取り、ミーティング等で共有してサービス提供につなげていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策を継続し、状況をみながら地域との関りを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアは、散髪の方のみの受け入れだった。面談が必要な場合は、個室にて換気するなど感染症対策を十分行なって対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> (コロナ禍で) きらめきに1日滞在して様子を見ているわけではないのでよく分からない。 不快な音や臭いはなく居心地は良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策を継続し、状況をみながら地域との関りを考えるとともに、引き続き通いや宿泊のサービス利用中に居心地の良い空間となるように環境整備を行なう。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の収束するまでは感染予防に徹し、その後も予防を継続しながらも参加できることや事業所で開催できることを考えて地域にお知らせしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度後半は運営推進会議を書面でなく集まって実施できた。 ・新型コロナウイルスの感染予防を徹底して継続しており、秋の文化祭参加以外では地域との関わりはもてない状況に変わりはなかった。 ・毎年行なっている、栗野南小学校1年生への雑巾の贈呈は今年も行なった。 ・敦賀きらめきとして「介護やすらぎカフェ」、「介護やすらぎ訪問」を継続して受託し実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はいつもあいさつしてくれる。 ・地域の行事に参加しているかは分からないが、コロナ禍の中難しいと思う。 ・近くなので（事業所が）あることは知っている。 ・地域の老人会では、全体ではなく一部の人たちで食事をするなど話しのできる機会を設けて閉じこもりを解消しており、それによってコロナに感染したことはない。 ・排泄ケア等の出前講座をやって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の収束するまでは感染予防に徹し、その後も予防を継続しながらも参加できることや事業所で開催できること、出前講座等も考えて地域にお知らせしていく（継続）。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めて、利用者が、その人の住んでいる地域での行事が開催された時には、参加できるよう支援する（継続）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も感染症予防対策のため、地域での行事も開催されることは少なく、参加することもなかった。 ・独居で、民生委員を通じて地域の中で暮らしている利用者には、面談の機会を設けたり、区費等の支払いにも協力して支え合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信紙や報告書を見て、地域に出ていることは分かった。 ・コロナ禍の中、感染者が発生した時は対応が大変だった。そんな中で地域に出向いて交流を図るのは難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めて、利用者が、その人の住んでいる地域での行事が開催された時には、参加できるよう支援する（継続）。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の計画(運営推進会議にて、地域での高齢者の困りごとを把握し事業所内でも情報を共有しておく。相談が必要な事例は会議にて対応を検討する。)を継続する。 ・リモート開催を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度後半は、ハーツの集会場や栗野公民館を使用して、集まって会議を行なうことができた。 ・民生委員との必要時の連携はとることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加して、事業所の取り組みは分かった。 ・事業所でのヒヤリハット事例は他の事業所のものも共有して、事故防止につなげると良いと思う。 ・公民館での会議は会場も広くて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の計画(運営推進会議にて、地域での高齢者の困りごとを把握し事業所内でも情報を共有しておく。相談が必要な事例は会議にて対応を検討する。)を継続する。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の防災訓練以外の不審者対策等も計画し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は事業所内だけで行なったが、不審者対策等通常の訓練と違った形での訓練を行なう余裕がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練のあった日は通って来ていない日だったので参加していませんが、災害の時は頼りになると思う。 ・不審者対策はなかなか対応が難しいと思うけれども、やってみるのは良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の防災訓練以外の不審者対策（不審者情報が流れた時は、近隣の職員に連絡するとともに送迎中の職員にも注意を促す）等も計画し実施する。